

ごぞいます

各表彰者を紹介します。

旭日双光章（自治功労）

宮本 克彦かつひこさん
（調川・白井、83）



昭和38年に地域住民から推され、市議会議員に当選。以来、昭和50年5月までの12年、さらに昭和54年5月から昭和62年5月までの8年、通算20年の永きにわたり、卓抜なる識見と豊富な経験をもって地方自治の発展に寄与されました。

明朗誠実な人柄と強い責任感に寄せられる地域住民からの信望は厚く、市議会では、教育民生常任委員会、総務常任委員会、病院再建特別委員会、庁舎建設特別委員会、決算審査特別委員会、火電建設促進特別委員会の委員長を歴任され、議会の円滑な運営に尽力されるとともに、本市の産業・経済の発展、教育・福祉の向上に多大な貢献をされました。

旭日単光章（中小企業振興功労）

森 眞一しんいちさん
（鷹島・殿ノ浦、80）



平成9年5月に鷹島町商工会会長に就任され、豊富な知識と優れた判断力で、地域小規模事業者の指導・育成および商工会の地位向上に努められました。

平成19年4月には、福島町商工会との合併を成し遂げ、新たに発足した松浦市福鷹商工会の初代会長として、福島・鷹島地域の商工会会員の事業発展のため尽力されました。また、市域にとどまらず、平成15年5月から平成19年5月までの4年にわたり、北松地区商工会連絡協議会会長ならびに長崎県商工会連合会副会長、同連合会人事管理委員会会長に就任され、県下商工会の発展に大きく貢献されました。

端宝単光章（消防功労）

金井田 澄男すみおさん
（鷹島・黒島、79）



昭和37年1月、鷹島村消防団に入団以来、46年の永きにわたり、強い責任感と積極的な実行力を発揮し、消防の任務遂行にまい進されました。

昭和43年に班長、昭和50年には分団長に昇進し、豊富な知識と磨き抜かれた技量をもって、災害現場はもろろんのこと、訓練の場においても若手団員の指導育成に力を注がれました。その姿は、地域住民に安心と信頼感を与え、地域の安全と消防団の発展に大きく貢献されました。所属分団の管轄区域が離島であることから、本土からの応援体制が容易でないため、火災予防や初期消火などの効果を特に重要視され、島民参加による火災想定訓練の実施に寄与されました。

時事通信社 教育奨励賞 《特別賞》



松浦市立上志佐小学校

時事通信社 教育奨励賞は、全国の幼稚園から高校までを対象に、授業の革新と地域社会に根差した教育をテーマとして、創造性豊かでユニークな教育を実践している学校に贈られる表彰です。各都道府県の教育委員会などから推薦を受け、厳正な審査の結果、今年30の学校などに教育奨励賞が贈られました。

受賞校の一つとなった上志佐小学校（森田重樹校長、児童65人）は、英語活動を特色とする学校づくりに取り組んでおり、特にウェブカメラを活用した映像と音声によるリアルタイムの発信を行うことで、海外の人ともコミュニケーションを図るなど、先進的な英語活動・国際交流を展開しています。このような取り組みが高く評価され、今回の受賞となりました。

受賞おめでとう

秋の叙勲の3人の受章者とその他の

ながさき農林業大賞

長崎県知事賞

《都市との交流部門》



一般社団法人
まつうら党交流公社

一般社団法人まつうら党交流公社（神田厚理理事長）は、県内最大のグリーン・ツーリズム実践組織として活動し、本市・平戸市・佐世保市における13地域で展開している体験型旅行事業の総合窓口としての役割を担っています。

この事業は、地域における交流人口の拡大と地域経済の活性化に貢献するほか、受入者と利用者の双方に充実感や達成感といった精神的・教育的効果をもたらすなど、地域づくりのビジネスモデルとして注目され、これを模範に取り組んでいる県内他地域への波及効果が高く評価されたことから、今回の受賞となりました。

運営委員会会長賞

《地産地消・食農部門》



農産物直売所
松浦ふれあい広場

農産物直売所「松浦ふれあい広場」（前田吉一会長、会員172人）は、農家女性の所得向上を目的として平成11年に設立。自主運営を基本に、地域農業の活性化と生産性の向上を目指して活動を続けています。

平成22年には、同直売所が中心となり、生産者、直売所、加工団体などで構成する「松浦市農水産物直売ネットワーク」を結成。学校給食における地場農産物の利用拡大や食育活動へ積極的に取り組むほか、福祉施設や保育所、小規模飲食店などへの仕入れ対応を行うなど、地産地消の推進拠点としての活動が高く評価され、今回の受賞となりました。

わたしたちの郷土

— 82巻 —

中世の松浦（48） 鷹島海底遺跡

10月28日から鷹島埋蔵文化財センターの展示品として、新たに元軍が使用したと見られる投石機（回砲）を公開しています。

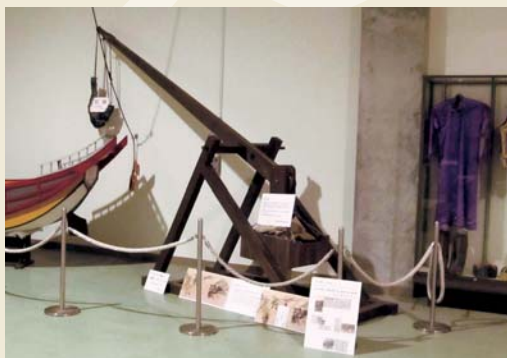
この投石機は県教育委員会の依頼を受けて、県立長崎工業高等学校（長崎市岩屋町）建築科の建築研究部員が、約3カ月を費やして復元したもので、高さが約4.5メートル、幅が約1メートルあり、実物の約3分の2の大きさになっています。

棒の先端に130キログラムの重しを取り付け、重しが落下する力を利用して棒を回転させ、その遠心力で石弾を飛ばす仕組みになっています。

10月22日に同校のグラウンドで行われた実験では、約3キログラムの石弾を試射し、最高で44メートルの飛距離を記録しており、この実験の様子も鷹島埋蔵文化財センターで上映しています。

また、鷹島歴史民俗資料館では、松浦市と琉球大学が協力して実施した、秋の鷹島神崎遺跡の発掘調査の様子を上映しています。前述の投石機の実験の様子と併せて、ぜひ、ご覧ください。

なお、資料館の休館日は、毎週月曜日および12月29日から1月3日までとなっています。



▲県立長崎工業高等学校建築科で復元した投石機